



名月や池をめぐりて夜もすから

(松尾芭蕉)

名月は秋の季語、月がこうこうと輝き、その月が池に写っているのに感動して、一夜中池の周りを回って池の月を見ていた。という芭蕉の句です。オランダの秋は短いようですが、それでも月や星が夜空に美しく瞬いているのを見ると、秋を感じます。ここオランダでは運河に写る月が見えるのでしょうか。

秋休みが終わり、2学期も後半になろうとしています。読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋、いろいろな冠言葉が付く「秋」ですが、子どもたちにとって実り多き「秋」になりますよう、教職員一同、日々の教育活動に全力を尽くしてまいります。

◆10月の学校行事◆

* 月行事予定の掲載は
割愛させていただきます。
ご了承ください。



熱演! 「学習発表会」

アムステルダム日本人学校の秋を彩る最も大きな行事である学習発表会が日本大使館・矢田領事様をはじめ、6名の来賓の方々にご来校いただき無事終了しました。また、多数の保護者の皆様にもご観覧していただきまして、ありがとうございました。子どもたちは練習の成果を十二分に発揮し、一人一人の個性が光る、素晴らしい発表会となりました。



中学部 合唱 「Hey 和」



小学部1年生 「たんてい! アムスクープ」



小学部6年生 「アンネ・フランク」

「ひとつの授業」

それは小学校の最後の年のことだった。私はブラジルのアメリカン・スクールに通っていた。社会科では世界史を学習していたが、そのことで幼い私の心は憂鬱だった。私は教科書の最後の方のあるパール・ハーバーという大きな見出しのついたそのページをそっとめくるたびに、そして先生がその授業をやる日のことを思い浮かべるたびに、私は、悲しい、腹立たしい、つまらない、いら立つのいずれでもない、本当に憂鬱としか言いようのない気分になるのだった。

私は、クラスでただひとりの日本の子として、その授業に臨まなければならなかった。教科書は、日本がいかにも悪魔的な世界征服の野心と狂気で、平和なアメリカを驚愕させたかを、意地悪いタッチで記述してあった。野蛮で遅れた国民が、自由と正義を体現した偉大なアメリカに対して滑稽な挑戦をしかけたこと、そしてその野望は原爆によってついにくじかれたことなどが、つづられていた。

一年も終わりに近づき、私はひそかに対策を練っていた。なんとか仮病で母をだまして、その日、学校を休むという作戦だった。ただひとつ最後まで気になっていたのは、世界史の先生のことだった。私はその先生が大好きだった。パール・ハーバーの授業を休んだら、先生はどう思うだろう。…朝になって、私はベッドを離れようとしなかった。私は母のこしらえてくれた甘いパンがゆを食べながら、やっぱりスクール・バスに乗って学校へ行くことを決心した。

世界史の教室に入ると、足早に自分の席に向かう私に、「ハイ、クニコ！」と先生は声をかけてくれた。その声の明るさに、かえって私の心は緊張した。授業がどうはじまったのか、覚えていない。緊張のあまり、周囲から音が消えてしまったかのようなようだった。

先生が黒板になにかを書いている……日本の石油の輸入の割合だ……おやっ……教科書にそんなこと書いてあったっけ……。日本は資源が乏しいこと、発展するために外国から資源を輸入しなければならなかったこと、どんなに資源の乏しい国でも、貿易によって発展する権利があること、しかし、欧米諸国は、アジアの国が発展しすぎることは許せないと思っていたこと、そこで、日本の資源輸入を困難にしていたこと…しかもなんとアメリカは、実は、欧州戦に参戦する契機をつかもうとしていたことなどなど…

「違う！ 教科書と全く違うことを先生は授業でしゃべっている！」

先生はたったひとりの生徒のために、その授業をやってくれた。クラスの誰もが、授業の内容が教科書と全く違うことに気が付いていた。しかし、いつもは活発な生徒達のひとりとして、そのことを問う子はいなかった。

戦争には、沢山の原因がある、と先生は言った。戦争だけでなく、国と国との間の事件には必ず複雑な背景がある。---それを単一原因論に短絡させてしまうのは、歴史に対する暴力だ---と先生は授業を閉じた。

教室を出るとき、先生に心からなにかを言いたかったけれど、ひとことでもしゃべったら、涙が一気にあふれそうだった。先生のおかげで私の中の子どもの部分は本当に救われた。しかしその時私は、私の中にもう一人の自分を発見したのである。もはや子どもとは呼べないそのもう一人の私は、国際関係の複雑な絡み合いを解決していく仕事を、そして平和の追求に関わる仕事を夢見ていた。

(「中学校国語」教科書 学校図書株式会社より一部抜粋)

上の文章は、後に国際政治学者、軍縮会議日本政府代表特命全権大使となり現在も活躍されている猪口邦子さんの少女時代の濃厚な思い出です。話は変わりますが、子どもたちにとって学習発表会の舞台は日本人学校の体育館の小さな舞台でしたが、子どもたちの将来の舞台は世界です。子どもたちが広い世界で将来活躍していけるよう、今後も保護者の皆様と共に指導していけたらと考えています。平成29年度後半もどうぞよろしくお願いいたします。(校長 尾後貫 智)